

# 教育長室だより

第 29 号

2021.10.8

10月に入っても日中は暑い日が続いていますが、朝夕はさすがに涼しくなってきました。これからしばらくの間が1年で最も良い季節です。学校の教育活動でもかき入れ時と考えられます。

今回の話題は“自殺予防”です。穏やかでない話題ですが気づかされることも多いので考えてみたいテーマです。

○

コロナ禍の子どもへの影響について様々な観点で取りざたされています。たとえば“子どもの自殺増加”が挙げられることがあります。

これについて中央大学の高橋聡美という自殺予防教育の研究者が『日本教育新聞』の10月4日号に興味深い文を載せています。記述に沿って考察してみます。

○

まず、子どもの自殺増加はコロナ禍以前から続いていたことが指摘されます。そしてその現因の一つはSNSの普及による急速な変化によってコミュニケーションの在り方が変わってきたことだと言います。多くの子どもは現実世界とネットの世界の両方の世界で日常生活を送っているというのです。

○

確かに直接友だちとぶつかる機会は減っているように思います。子どもたちだけで一緒に何かの活動をするということはかつての子どもたちより減ってきているでしょう。減った分、SNS等でのコミュニケーションが増えていると考えられます。このネット上のコミュニケーションは時に簡単に人を傷つける刃物になることがあります。

○

高橋さんは「最近の子どもは打たれ弱いと言われるがむしろこのような複雑で変化の激しい社会の中でよく耐えている」と考えています。先に述べた現実世界とバーチャルなネット世界の両方で生きることが“生きづらさ”につながり、自殺の一員にもなっているというのです。ですから学校で明るく元気に振る舞う子どもの多くが“生きづらさ”を感じていることに注意が必要だと警告します。

○

自殺をする子どもたちはたいていSOSを出しているので、自殺予防教育ではSOSの出し方やいじめ対策や命の大切さを教える教育が中心となっているようです。

ここで高橋さんが注目すべき指摘をします。それは、大人達によるSOSの受け止め方の方に問題があれば逆効果にもなるという点です。うまく受け止めなければ「相談しなければよかった」という思いになるというのです。

大人の受け止め方として、わたしたちはついいきなり解決法をアドバイスしたり、

良い悪いを断定したりしがちです。そうではなく「ありのままの状況を聞いてあげる  
こと」、「どんな気持ちかを聞くこと」、「子どもに見えている情景を見せてもらうこと」  
という態度が大切であるということなのです。

○

また、わたしたち大人はどうすれば良いのかについて次のように言います。

まず大人がSOSの受け止め方を習得する。SOSの受け皿が用意できたら、それから  
SOSの出し方を教える。というように段階的に教育を進めることが必要だと。

そして、良い言葉だけを使った「他己紹介」などの活動を通じて言葉が与える影響  
について理解していくことも重要だと言います。高橋さんは続いてストレスや心の病  
の対処法などのライフスキルに関わる内容も自殺予防教育には含まれると言ってお  
り、子どもたちに身につけさせたい事柄を述べています。

○

これらの問題は学校教育の世界でも、近年、急ぎ取り組むべき課題としていろいろ  
と議論されてきたことです。自己肯定感あるいは自尊感情の低さというものが、自殺  
だけでなく、子どもの世界に現れる様々な問題、たとえばいじめや不登校、暴力など  
の背景にあることが認識され、これに対して様々な方法による取り組みが模索されて  
きました。SST（ソーシャルスキルトレーニング）、ペップトーク、コーチング、そ  
して藍住町でも以前全校で取り組んだ予防教育など山に登る道は違っても、主たる目  
的は子どもの自尊感情を高めたり、社会的なスキルを身につけたりするものだと考え  
られます。

○

先の高橋研究員の言説には、カウンセリングマインドの重要性を強調するだけでな  
く具体的にどのような手順で進めていくかのヒントがあるように思います。

ともかくも子どもたちが学校や家庭生活の中で自己実現していくために、自己肯定  
感を高める指導が不可欠な時代であることは確かであると思われます。

○

本町では今年度よりSWPBS（ポジティブな行動支援）に取り組んでいます。一部  
の学校では校長先生の声かけですでに取り組みが始まっていましたが、この組み  
みをそれぞれの学校ごとに工夫したやり方で取り組むこととしたのです。

この取り組みは型どおりの実践があるわけではありません。むしろ何より大切な  
のは教員の子どもの見る眼の変容だと考えます。子どもの長所や評価すべき言動に敏感  
に気づく見方、常にポジティブな声かけをする姿勢などの教師の姿勢によって子ども  
を前向きな気持ちに変えていくこと…これが本質だと思うのです。

○

このような子どもを見る眼や接し方は、教員だけでなく家庭や地域で子どもを取り  
巻く大人たちにぜひ知ってもらいたいと考えるところです。